理科学習指導案

平成21年7月13日(月) 1校時 指導学級 3年進学コース物理 I 選択者

男子7名 女子1名 計8名指導者 窪 寿人指導教室 化学実験室

1、クラスの実態

全体的に意欲的に授業に取組み、疑問点がある場合も積極的に質問をするクラスである。物理に対する 興味・関心も高く、実験に対しても積極的に参加する。しかし、現象を定量的に扱うことが苦手な生徒が 多く、今後の課題である。

2、使用教科書

第一学習社 高等学校 改訂 新物理 I

3、指導単元

大単元:波動 中単元:音波

小単元:波としての音の性質

4、単元の目標

日常に起こる地震や音・光・電波など、様々な波動の現象を観察、実験などを通して探求し、それらの 基本的な概念や法則を理解させ、波動についての基礎的な見方や考え方を身につけさせる。

5、大単元「波動」の指導計画

中単元	小単元名	指導内容				
音波	・ 音の速さと3要素	・ 音の媒質と速さ。音の3要素(1時間)				
	・ 波としての音の性質	・ 回折・反射・屈折。干渉とうなり(1.5 時間)				
	(本時)					
	・ 弦の固有振動	・物体の固有振動。弦の振動 (2時間)				
	・ 気柱の共鳴	・管の中の空気の振動。閉管と開管(2時間)				
	ドップラー効果	・ドップラー効果(1.5 時間)				

6、本時

干渉とうなり(1/1.5時間)

7、準備物

パソコン、スピーカー

8、展開

1 12 1/11					
過程	時間	指導事項	学習活動	留意点	評価
導入	7	•復習、確認	・「音の3要素」および「波の干渉」		
	分		について復習する。		
	8	[実験1]	・ 席を立って、スピーカーから	・音の強弱にはす	音の強弱に
展開	分	音の干渉	出る音を聞きながら移動し、	ぐに気づくが、	は、特徴(干
			「音の干渉」を体感する。	双曲線状になっ	渉縞)があ
			発問:強弱にはどのような特	ていることにな	ることに気
			徴があるか?	かなか気付かな	付くことが
				い。生徒をそれ	できたか。
				ぞれ配置して、	
				干渉縞になって	
				いることを確認	
				する。	
	12	・実験の考察	実験1から気付いたことを、	・個人発表をさせ	・音の強弱の他
	分		レポート用紙に記入する。	る。	に、干渉縞が
			・ 音も波なので、波特有の現象	これまでに習っ	双曲線になっ
			である「干渉」が起きること	た内容を忘れて	ていること、
			を理解する。	いるような場合	左右対称であ
			発問:音の高さ(波長)を	は、ノートを見	ることなどが
			変えると、どのよう	直させ、参考に	あげられる。
			な変化が起こるか。	させる。	
			実験の前にこれまで学習したこ	・個人発表をさせ	
			とをもとに、予想を立てる。	る。	
	8	[実験 2]	・再度、席を立って音を聞きなが		・自分の予想と
	分	音の干渉(音	ら位置を変えて回り、実験1の		比べてどうだ
		の高さを変	ときとの違いを確認する。		ったか。
		えたとき)	・音が高くなると、干渉縞の間隔		
			が狭くなり、音が低くなると、		
			間隔が広くなることを確認す		
			る。		

まとめ	15	・まとめ	・音も「波の干渉」と同様の「干	・机間巡視をし、	
	分	• 問題演習	渉」現象が起こることを再度確	板書の写し間違	
			認する。	いがないかチェ	
				ックする。	
			・研究ノートの問題を解き、理解	・問題演習で、つ	
			を深める。	まづいている生	
				徒がいたら、ア	
				ドバイスをす	
				る。	

「音の干渉実験」レポート用紙 3年()組(`
[実験 1] $\mathbf{Q} 1$ 、 2 つのスピーカーから出る音を聞いて、 <u>気付いたことを全て</u> 記入しなる(自分)	ŹΛ,°
(他の人)	
結論	
[実験2]Q2、2つのスピーカーから出る音の高さを変えたとき、どのような変化が現(予想・理由)	ねるだろうか?

(結果)